露草

松岡隆子

眸先生一周忌

道あれば露草咲いて師の忌かな

眸忌の真赭の芒日をこぼす

秋声のことに師の碑の辺りより

偲ぶとふ限りなきことつくつくし

露草の青さ心にしをりけり

人声の風と昏れゆく花野かな

松江行

色変へぬ松や神代の風吹けり

本殿の真裏もつとも秋気満つ

秋光や水都の湖の縹いろ

誰彼と語り水都の秋惜しむ

虫の夜の句座もて一日しめくくる

言葉なほ重ねて燈火親しめり